

# 医療九条の会・北海道 会報 第6号

発行：2009年5月 発行責任者：猫塚 義夫

札幌市北区北14西3 1-12 TEL(011)758-4585 FAX(011)716-3927 9jyo@dominiren.gr.jp



## 道南医療九条の会 誕生

4月24日、北海道で初めての地域医療九条の会である「道南医療九条の会」が結成されました。2008年6月に10人の呼びかけ人で準備会を立ち上げ、何度も会議を積み重ねて、広く参加を呼びかけてきました。

結成総会1週間前の4月17日には、作家・精神科医で九条の会・医療者の会呼びかけ人の一人である、なだいなださんをお招きして、市民400人が参加した講演会を開催しています。(講演の内容は別記でご紹介します)

「道南医療九条の会」の役員をご紹介します。

- |      |                         |
|------|-------------------------|
| 共同代表 | 大脇 康弘 (おおわき整形外科・外科医院院長) |
|      | 清藤 堯士 (清藤歯科医院院長)        |
|      | 高橋 純子 (函館稜北病院総看護師長)     |
| 幹事長  | 堀口 信 (道南勤医協理事長)         |
| 幹事   | 金井 卓也 (函館厚生院理事長)        |
|      | 多田 直人 (五稜郭メンタルクリニック院長)  |
|      | 橋本 和幸 (函館保健企画社長 薬剤師)    |
|      | 湯浅 弥 (函館赤十字病院ソーシャルワーカー) |
|      | 道家 庸熙 (ヒカリ調剤薬局 薬剤師)     |
|      | 長谷川昭一 (道南勤医協函館診療所所長)    |
|      | 武井 啓二 (函館稜北病院事務次長 検査技師) |

### もくじ

道南医療九条の会 誕生	1
なだいなださんの講演 「とりあえず主義と憲法」	2
ペシャワール会事務局長福元満治さんの新聞エッセイ	6
中村哲講演会協賛金のお願い	8

## 迫る！

### ペシャワール会 中村 哲さんを迎えて 札幌講演会

6月11日(木) 18:30～ 札幌・共済ホールにて

北海道保険医会、札幌市医師会をはじめ、道歯科医師会・薬剤師会・看護協会・臨床衛生検査技師会・理学療法士会・作業療法士会・放射線技師会など多くの医療関係団体からご後援をいただくことになりました。心より御礼申し上げます。

現在、中村医師はアフガニスタンに常駐して、現地で発生した洪水による被害復旧活動の陣頭指揮にあたっています。万が一帰国が間に合わなかった場合、ペシャワール会事務局長・福元満治さんの講演と、中村医師からのビデオメッセージを予定しています。

4月17日 函館市芸術ホール

# 「とりあえず主義と憲法」

なだ いなだ さん

精神科医 作家 評論家

自らバーチャル政党「老人党」を立ち上げるなど、幅広くご活躍中の79歳。

なだいなださんをお招きした市民講演会（主催：実行委員会 委員長：三上昭廣 函館渡辺病院・院長）が、4月17日、函館市芸術ホールで開かれ、医療関係者をはじめ、市民、学生など400人が参加しました。その講演を編集部でまとめましたので、ご紹介します。

## 何もなくて、何もない

私は「なだいなだ」といいます。ナダはスペイン語で「何もない」。「イ」が接続詞ですので、「何もなくて、何もない (nada y nada)」という意味になります。ナダは、「どういたしまして」というニュアンスもあります。わたしは「どういたしまして」と考えている人間です。

私はモノ書きという商売と、医師をしています。「医師は片手間にやる仕事なのか」と言われることがあります。精神科という分野は、私のようにのめり込まない方が良いでしょう。

昔、アルコール依存症の治療をやれと言われて、嫌々やり始めたんです。精神科を専門にしようとは思っていませんでした。教授に「アルコール依存症の治療センターができるから、行け」と言われて、仕方なしに行ったんです。当時、アルコール治療は医師みんなが嫌がっていました。それまで私は5人ほどアルコール依存症の患者を診ましたが、一人も治すことができなかった。「自信がありません」と教授に相談すると、「私にも治せん。あれは不治の病だよ」

と言われ、少し気が楽になりました。

それにしても治せない病気を治そうとするのは、患者にとって迷惑だろうと考えた私は、「何もしない」と心に決めました。それまでの精神病院は、鍵をかけて患者を閉じ込めて言うことを聞かせようという方針でした。自分の力で酒がやめられないのならば強制的に酒を断たせようとしたわけです。でも、患者にしてみれば「こんな所に閉じ込めやがって」と思い、逃げようとする。酒が切れると頭もキレてきますから、うまいこと脱走するわけです。アルコール依存症患者が脱走しないよう1病棟に30床まで制限し監視していたのが従来の精神病院でした。ところが、私の行った国立久里浜病院では40人も診なければならないというので困りました。職員会議を開き「患者を逃がそう」ということになりました。「逃げたい人はどうぞ」と、施錠をしないことにしたのです。面倒な患者には逃げてもらい、居たい人だけが残ってくれるなら、それほど難しくないだろうというわけです。久里浜病院は辺鄙な所にありましたので、歩いて逃げるわけにもいかないだろうと思い、患者のお金を預からず、本人に持たせていたのです。施錠せず、患者にお金を自由にする精神病院は

45年前の当時では珍しい事でした。恐らく日本では初めてだったのではないかと思います。入院希望者が殺到して200人も待っていたので、3か月後には退院させるという方針もとりました。

治療する方法がないので、患者さんと話しをするしかなく、徹底的に話を聞きました。それをやっていくと、一人も逃げない人がいないんです。なぜ逃げないのかと不思議に思い、それまで5回も精神病院を窓から逃げていた患者に聞きくと「鍵をかけず、お金も持たせて、いつでも逃げていいだなんて、こんな病院ふたつもない。退院してからまた酒に負けたら、この病院に入りたい。他の病院では嫌だから頑張った」と言うんです。

## 「とりあえず今日1日」の つまかさね

退院していった人は1か月後も2か月後も酒を飲まずに頑張っていました。私が何もしなくても、患者同士で断酒会を作って、努力をしていってくれたんです。

医師が治療して一生酒を飲まない人間をつくるのではなく、「とりあえず今日のところはお酒を我慢してもらおう」ことにしたわけです。「1年も2年も先のことは考えず、『とりあえず』今日一日だけお酒を我慢して、明日になったらさらにもう一日だけ我慢していこう」と、患者さんたちに話をしました。「とりあえず何かをする」ということはとても大事なことです。それでいつの間にか「とりあえず主義」と名乗るようになったんです。

今日一日なら禁酒できるかもしれない。でも、それを続けることは、意外と難しいことです。難しさの中には、ノーベル賞をもらったり、オリンピックで競争して勝つといった絶対的な難しさがあります。もう一つの難しいことは、一年間毎日10円ずつ貯金したり、欠かさず日記を書くことで、なかなかできる事ではありません。途中で忘れちゃって、一年間続ける人はほんの数えるぐらいに減ります。アルコール依存症の人が直面する難しさというのは、そういっ

た毎日休まずに継続することなんです。

ですから、毎日休まずに続けるためには、グループ、仲間が大切になってきます。週一回仲間と会って交流しながら断酒会みたいにして、みんなでやらなきゃダメなんです。一人ひとり笑顔で握手して「また来週会おうな！」と励まし合って一日一日を大切にする。そうするといつの間にか続いているんですね。

お酒を辞めた本人を見ても、家族はなかなか信用しません。これまでさんざん裏切り続けられてきましたから、はじめは冷たい。また飲むのではないかと疑って、出先から帰るとクンクンと嗅いだりして、本人にしてみれば良い感じがしないのですが、禁酒を続けることで家族からも信頼を取り戻し、やがて協力してくれるようになる。「お父さん1年も頑張ったね、凄いね」と、家族の支援に励まされて断酒に成功するわけです。

ある患者さんには「先生は頼れない人だから、自分で治すしかないと思って頑張った」と言われたこともありましたが、病院で私は何もしてきませんでしたが、本人が頑張り、周囲が勝手に支えて治癒してくれました。何もしなかったのに役に立つことができたわけです。こういった事は、実はよくあることです。患者さん自身が自分の病気だと意識し、グループをつくったりしながら努力をする。医者は専門の知識を生かして、患者さんに対して少し引いた立場で役に立つわけです。お酒を辞めるというのは、「治療」というよりも「養生」そのものなんです。

病気には、治るか治らないか分からないものがあります。また、治るにしても時間のかかる病気があります。例えば結核になれば治療に何カ月もかかります。お薬を飲むにしても何カ月も飲み続けなければ効果がわからないこともあります。一日のんで「効かない」と言ってもやめてしまったら、薬の効果は分かりません。効果がわからなくても「とりあえず」毎日薬を飲む努力をしなければ結果がわかりません。この「とりあえず主義」が神経症の方には応用できます。これは古くからある知恵なのです。

## 「しょうがない」ですます政治をあらためる

「とりあえず主義」から見ると、日本は原則の議論ばかりする国だと思います。例えば憲法論議のときも原則のことばかり言いますけれど、歴史を見なければなりません。

戦争は何によって起こるのか、まずそのことを考えなければいけません。私たちが「平和」を考える際、ウツカリすると忘れてしまいかねません。

最近、「希望は戦争だ」と言う若者が現れてきて、ドキッとしました。しかしこれは、この若者だけの話ではないんですね。職もなく、未来に希望が持てない若者が「希望は戦争」という気持ちになっても不思議ではありません。それは、私たちがこの現状を放っておくからです。

戦争をさせない国づくりのために、まず私たちのまわりの生活を考えて、「とりあえずやっていかなければならない事は何か」を探していく必要があります。私たちはそういった努力を怠ってきたところがあると思うのです。大上段に振りかぶった論争は好きだけれど、実際目の前に起こっていることに対しては、あまりやろうとしません。

例えば、健康のことについてもそうです。憲法にはちゃんと「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」「国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」と書いてあります。でも実際には「保険が赤字だから」といってボンボン値上げをする。すると、払えないので医者にかかるのをやめる人も出てくるわけです。患者から「お金がないので病院に行けない」と言われたら困るわけですが、「しょうがない」と嘆いてはしょうがないですよ。やっぱり積極的に政治に関わらなければ。「今の制度はやめさせなければ」と力を合わせなければいけないと思います。そのためには、「しょうがない」で済ます政治に対する考え方を改めなければなりません。

厚生省のある官僚と話をすることがあったの

ですが、その時「先生、仕事は楽しいですか」と聞かれたので、「臨床の仕事は面白いよ。人々の人生に関わることができる」と答えると、彼は「いいですね、官僚というのは『昇進』以外に生きがいはありませんから」と嘆くのです。私は思わず「バカを言うな！俺たちは一人ひとりの病気を治すだけの仕事をしているのに面白い。だが、国の力で国民の健康と命を守る仕事をやっているお前が、なぜ生きがいのない仕事というのだ」と怒りました。

## 歴史から学ぶことが希望につながる

みんな、嘆いているばかりではいけません。勉強をしましょう。

日本の憲法というのは日本だけのものではありません。

世界の平和条約の歴史を追いますと、1928年に不戦条約が世界中で締結されました。また、フランスとドイツなどがロカルノ条約（1925年）で不戦の誓いをしました。しかしそれは脆くもくずれることになりましたが、この時代に、フランスのアリステード・ブリアン首相や、ドイツ外相のグスタフ・シュトレゼマンなど、ノーベル平和賞を受賞した人たちが作った「もう戦争せずに、平和的な手段で国際的な紛争を解決しなければならない時代がやってきた」と主張する「不戦の思想」をもった人たちが世界中に広まっていったのです。

これらの不戦条約に批准した文章は、全部ワシントンで預かっています。ですから、マッカーサーの部下の誰かが不戦条約を知り、日本の憲法9条に記したのではないのでしょうか。

9条は、「外国から影響を受けたから価値がない」というものではなく、逆に「世界の考え」だから価値があるのです。ただ単に日本一国の考えではなく、世界中にたくさんいる人たちの考えを9条が持っているからこそ、平和の望みが生まれてくるのです。

戦争の一番の根本は、世界の貧困です。これを放っておくわけにはいかない。貧困がなけれ

ば、戦争というのは起きない。戦争はチョットした問題がだんだん大きくなり、やがて沢山の人間に被害を及ぼすことになるので、ここで考え方を大きく変えねばなりません。近代の政治というのは、例えば、アメリカの独立というのが大きな影響を及ぼしてきました。アメリカの独立がフランス大革命に影響し、それが東欧諸国の革命に影響を与え政治がひろがっていきました。そして、その度に人権などの考え方は、憲法の条項としてアメリカの独立宣言の中にあつたものが、フランスの憲法の中に入り、フランスの憲法が明治憲法までに影響を及ぼしてきたわけです。さらにそれは今の日本国憲法の中にも同じ考え方が入ってくるわけです。回りまわって条文はいろいろと変わりますが、私たちは憲法の条文よりも、その「精神」のことを考えなければなりません。

国家権力は、個人の犯罪の及びもつかないほどの犯罪をします。それが戦争です。戦争を「自衛の権利」だと称した時から不幸が始まります。不戦条約では、「自衛のための戦争」を放棄するとなっています。

ところが、今の日本では「攻めて来られたら守るために攻めなければならない」と、自衛の権利を主張する論調が強まっています。自衛の権利を捨てたときにこそ、はじめて国際的な不戦の体制が生まれ平和になるのです。私たちは、もっと歴史から学ぶ必要があると思います。勉強をして、世界が平和の方向に動いているという希望をもって運動をおこし、続けていくことができると思えるでしょう。



## 5月3日 憲法記念日 街角リレートーク



今年で3回目を迎えた「街角リレートーク」。

ほっかいどうピースネットや北海道平和運動フォーラム、札幌YWCAなど10団体が共同で開催しています。当会も主催団体の一員に加わっています。

札幌市・大通公園西3丁目で、それぞれの団体からスピーカーが一人ずつ出て、それぞれの憲法に対する思いをお話します。

当会の今年のスピーカーは、共同代表の能條多恵子さん（元富良野看護専門学校長・麻生脳神経外科病院看護部長）。

能條さんは、憲法が第25条2項で「国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」と国に義務を課していることをあげて、「医療従事者は国が果たすべき義務にもとづいて、医療に従事しているのであり、自ら憲法を擁護・尊重するのは当然の責務」と訴えました。

ペシャワール会事務局長

## 福元 満治さん の新聞連載エッセイから

ペシャワール会の事務局長にして、福岡市で「石風社」という出版社の社長を務める福元満治（ふくもと みつじ）さんが、「南日本新聞」に連載してるエッセイ「南点」から です。

右上：1月16日付け

下：5月 8日付け

## アフガニスタンの大地とともに

### 伊藤和也遺稿・追悼文集



アフガニスタンの農業復興を夢み、昨年秋、志半ばで凶弾に斃れた一青年の遺した、深きところ。

ペシャワール会 編集

石風社 発行

定価 1,575円



南点

二〇〇九年の正月は、アフガニスタンのシヤラバードで迎えることになった。新年といってもそれは西暦の世界のことです。イスラム世界の人々にとっては正月もただの木曜日に過ぎない。イスラムでは金曜日か休日なので前日は洋トシである。この日も朝の五時過ぎに起

際サトウが二十キロの用水路を建設した地域や取水口を修復したヒスト、シキ、シエイフの村々では、麦の緑が瑞々しく広がっている。道端の間口羊間の八百屋には、旬のカラカラトが山と積まれ、金時ニンジンや紫タマネギに大根、キャベツが整然と並べられている。

温暖化のせいかな先に一挙に洪水となって流れ去った後、大地が乾ききるようになった。

国民の八割が農民、穀物自給率九割を超えた農業国で、二〇〇〇年から続く旱魃によって、百万を越える難民が出ている。しかし「国際社会」では、この旱魃難民は、タリバンの圧政からの避難民だと喧伝された。昨年イギリスのNGOがアフガンでは五百万人が飢餓線上にあると警告し、王立の防衛研究所すら、戦争の前に解決すべきは旱魃であると指摘した。

弁舌爽やかなアメリカの次期大統領は、主戦場は عراق ではなくアフガンであると言っている。その言や良し。まさしくアフガニスタンは、飢餓との戦いの主戦場なのである。

アフガニスタンが主戦場

き、中村哲医師と共に七時には宿舎を出て水路工事現場へ向かった。気温は七度ほどだが比較的暖かい。カーブル河を遡ると見なれたケシマンド山系の雪が、三月に来たときよりも少なく、旱魃の進行はこの十年近く治まる気配はない。それでも私たちがPMS（ペシャワール会医

アフガニスタンは乾燥地帯ながら冬場が雨期で、この時期天水農業が可能だった。四〇度を越す夏場数カ月間は、灌漑に頼る農業だった。その夏場の農業を支えるのは、国土の八割を占める六、七千級の山々に降り積もった雪解け水である。ところが近年雪が減っただけでなく

南点

五月の連休に話す機会を与えられて東京も福島に出かけた。私たちペシャワール会は、ハマスとアフガニスタンを活動しているが、そのNGO活動を通して見える「日本国憲法」について語れということであった。私たちは長年、身の安全のために四輪駆動車に目の丸を張り

ットになり始めたからである。それまで、日本への親近感ばかりか、強硬なものがあった。大きな理由は二つある。一つは日本が日露戦争で大国ロシアに負けたことへの称賛。もう一つは、ヒロシマ、ナガサキの惨禍を知っており、敗戦から技術立国として復興し、さらに

て「運動」することはないのだが、身の安全上、自衛隊の派兵問題には、びりびりせざるを得ない。その自衛隊に「現実的」な縛りをかけているのが「日本国憲法」である、というのが私たちの美感である。軍事的に弱肉強食化した世界のなかで平和憲法を言うことを、「理想論」として冷笑する向きもある。だが、戦争を体験した先人たちの深い反省にもとづく頑固な知恵としてまた安全保障の要として、その精神を享受したい。

日の丸と憲法と安全保障

付けて活動していた。週彦彰で語るには、湾岸戦争への百三十機の出発、自衛隊のインド洋での後方支援、Iraqへの派兵と続く中で、車両から日の丸を外さざるを得なくなったからである。つまり一連の動きの中で、日本は米軍の同盟軍とみなされ、日の丸が武装勢力のタテ

経済大国となっても、他国への軍事的介入は一切行わなかったことにたいする敬意である。朝鮮特需やベトナム特需を考えるとそれは美しき誤解であるが、その敬意が外国で活動する日本人の安全を、ある面保証していたことは否定できない。

私たちは、政治や平和に関し

九条を変えれば自衛隊を主体的に動かせるという主張に対しては、それこそが空理空論であると言いたい。その時、日本車を自在に動かすのは米国であることこそが、日米軍事同盟の縛りの中では現実的なのである。

## ペシャワール会代表中村哲医師をお迎えする札幌講演会 協賛金へのご協力をお願い

2009年5月 中村哲講演会実行委員会

委員長 三上 一成

(三上整形外科医院院長)

日頃より大変お世話になっております。

このたび、私どもが主催して、標記講演会を開催することになりました。ご存知のように中村哲医師は、混乱の長引くアフガニスタン・パキスタンの地で長く人道・医療支援を続けておられます。昨年は現地スタッフの伊藤和也さんを失うという大変悲しい事件が起こり、戦争地帯での人道支援のむずかしさとともに、「武力をかざしながらの人道支援はあり得ない」事実が突きつけられました。

オバマ大統領がイラクからの米軍撤退とあわせてアフガニスタンへの増派を打ち出す中、平和憲法を持つ日本がどのような貢献ができるのか、しなければならぬのか、中村医師のお話を聞きながら、私たち一人一人がしっかりと考えていかなければならないと感じています。

一人でも多くの方にご参加いただければと願っております。

今回は講演会とともに同時期上映の映画「子供の情景」、故伊藤和也さん写真展のご案内を送らせていただきました。お忙しい中と思いますが、ぜひとも会場へ足をお運び下さい。

あわせて、本講演会を成功させ、ペシャワール会の活動へ少しでもお役に立てたいと、協賛金をお願いをさせていただいております。

まことに勝手なお願いで恐縮ですが、お力添えをいただけますよう、重ねてお願い申し上げます。

### 中村哲医師をお迎えする札幌講演会

6月11日(木) 18:30開会 札幌・共済ホールにて

\*現在、アフガニスタンで洪水が起きていて、中村医師は現地で先頭に立って復旧活動に当たっています。万が一帰国できなかった場合は、ペシャワール会事務局長・福元満治さんの講演と、中村医師のビデオメッセージ、現地VTRの上映を行う予定です。

### 協賛金をお願い

講演会の運営費用及びペシャワール会への募金として活用させていただきます。

「一口5,000円」を目安とさせていただきます。皆様のご協力をお待ちしています。

送金先 郵便振替 02750-4-66088

(振替用紙を同封しましたのでお使い下さい)

銀行振込 北洋銀行本店 普) 2347603

名義はいつでも「中村哲講演会実行委員会」です。

ご不明な点がございましたら、下記の講演会事務局までご一報下さい。

札幌市北区北14西3 「医療九条の会・北海道」 気付

TEL(011)758-4585 FAX(011)716-3927 9jyo@dominiren.gr.jp